

対照言語学研究者、英語教育を語る

野瀬昌彦 Masahiko Nose
滋賀大学 経済学部 / 教授

1. はじめに

私の専門は、ある言語と別の言語、少なくとも2つ以上の言語の文法を比べる「対照言語学 (Contrastive Linguistics)」という分野になります。今回のエッセイでは、この対照言語学の点から英語教育及び自身の授業実践について述べていきます。

滋賀大学の語学および専門教育として、日本語(外国人学生の場合、各々の母語)という眼鏡を通して英語を見ることで、英語への理解と共に、母語への理解も深くなってほしいというのが結論となります。

2. 対照言語学とは

まず、対照言語学の研究について簡単に紹介します。例えば、日本語と英語の文を比べてみましょう。

(1) 太郎が花子を招く。

Taro invites Hanako.

(2) 私には車がある。

I have a car.

例文(1)では、日本語では動詞が最後に来る「主語-目的語-動詞」の語順であるのに対して、英語では動詞"invite"が主語と目的語に間に入る「主語-動詞-目的語」の語順となります。日本語では太郎「が」、花子「を」のように格助詞がつくため、「花子を太郎が招く」という語順も可能で意味的に変化がないのですが、英語は格助詞が(一部を除くと)存在しないため、「Hanako invites Taro」と語順の位置を変えてしまうと、花子が太郎を招くことになり、意味自体が変化してしまうことになります。なお、日本人の親を持つ英語母語の子供が英語を話す場合、動詞を最後に持ってくる場合があるようです(日本語の会話では、文法的とは言えないですが、「招く(よ)、太郎が花子をを」のような語順も可能です)。

例文(2)では所有文を見てみましょう。英語の場

合、「主語-動詞-目的語」という語順の枠組みが強いため、所有文でも動詞"have"を使った構文の形となります。他方、日本語では、「私は車を持っている」という英語的な所有文も可能ではありますが、より自然な所有文としては例文(2)の「私には...がある」の方が適しています。実は、所有文について世界の言語を調べると、日本語タイプの所有文の形式の方が多いのです。ドイツ語やフランス語のようなヨーロッパの言語では、英語型の"I have a car."形式が圧倒的ですが、他の地域の言語では、「私には車がある」的な形式の所有文が多いのです。

3. 対照言語学と外国語教育

語順に関しても、実は動詞が後ろに位置する「主語-目的語-動詞」タイプの方が、英語タイプよりも多いのです。そういう点では、文法自体を純粹にみれば、日本語の文法の方が世界の言語の多くに観察されます。とはいえ、日本語タイプの文法に慣れ親しんだ我々日本語母語話者にとって、英語タイプの言語を習得するのは難しいのです。当然ですが、文法タイプが異なるとはいえ、日本語の書物で英文法や英単語を解説した良書はたくさんありますし、CALLというコンピュータを利用した英語学習のシステムや最近ではyoutubeなどに英語を見聞きできる無料のサービスも多いです。なので、文法タイプが異なるからと言って、環境的に英語が学びにくいということは意味しません。

現代では英語というのは、科学やビジネスの中での世界語としての地位を得て、他の言語が取って代わることはもはやないと思われれます。なので、英語が母語でない我々非英語母語話者は多かれ少なかれ、英語を学ばざるを得ません。その場合、母語である「日本語の眼鏡」をいったん外し、「英語の眼鏡」をかける必要があります。しかし、「英語の眼鏡」をかけたとしても、もともとの「日本語の眼鏡」で見えていたものが、



対照言語学の点から、言語や社会、文化について考える（専門演習の授業より）

英語の習得や会話の邪魔をしていくことがあります。なので、授業においては、その邪魔するものに焦点をあて、日本語と英語をニュートラルに観察する視点に注目していくことになります。

4. 英語教育への展望

ある言語と別の言語を比べる対照言語学において、対照言語学の国際学会に行きますと、どうしても日本語と英語の対照、ポーランド語と英語の対照、中国語と英語のように、各発表者の国籍の言語と英語との対照研究になってしまっています。この状況は、「英語の眼鏡」の深い理解には役立つのですが、これでは英語中心の研究となってしまう、これは対照言語学が究極的に求める部分ではありません。本来であれば文法のタイプとして少数派である英語が、「比較のための対象」となってしまっていて、対照してわかることが限定されてしまうのです。

似たような状況が機械翻訳の分野でも発生しています。日本語と英語の間の翻訳、ドイツ語と英語の間の翻訳が非常に優秀である一方、日本語とドイツ語の間の翻訳システムはあまり優秀ではありません。な

ので、「日本語－英語－ドイツ語」のように翻訳の元の言語と対象の言語の間に英語を挟んで、機械翻訳を実行するのです。

対照言語学の意義が、さまざまな言語を観察して、それぞれの言語が持つ眼鏡の仕組みを明らかにしたり、出てきた違いを見つけ、なんとか説明しようとするものです。幸運なことに、滋賀大学では英語以外にも第2外国語の授業がありますので、英語以外の外国語の習得を通して、自身の「(言語に対する)眼鏡」を作ってもらいたいと思っています。

5. まとめ

最後に、英語教育への課題について述べます。日本においても世界においても「英語ができること」が最重要であることは確かでしょう。同時に、母語である「日本語の眼鏡」を通して英語を観察し、分析できるようになってほしいと思っています。加えて、可能ならば、日本語と英語、そしてもう一個の眼鏡(第2外国語)を持ち、複眼的な観察眼を持ってほしいと思いつつ、授業を組み立てています。